

教育目標: 心豊かな三小の子に ○やさしい子 ○進んでとりむ子 ○考える子 ○元気な子

めざす学校像: 『子供たちが明日も行きたくなる学校』

めざす児童像: 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識をもつ児童 ・社会に対して主体的に関わり合い、社会に貢献することのできる個性と創造性豊かな児童

めざす教師像: 指導力に優れた教師 ・児童、保護者、地域から信頼される教師 ・組織的な学校運営に進んで参画できる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムマネジメントの確立 授業改善の推進 ICT環境の有効活用 高学年教科担任制の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な学習の充実を図る。 週ごとの指導計画の充実による教員の授業力の向上 児童一人1台貸与するタブレット端末等を活用した指導を取り入れ、指導の充実を図る。 専門性の高い授業を実施し、知的好奇心を高めるとともに、中学校への円滑な接続を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 週ごとの指導計画には、ねらいと学習活動を明記するとともに、指導記録の作成による振り返りを積み上げ、指導と評価の一体化を推進する。 ICT機器を効果的に活用し、児童の学習意欲を向上させる。 授業コンテンツの開発を行い、個別最適化された授業を実施する。 	4		4		<ul style="list-style-type: none"> 週ごとの指導計画には前の週の指導について振り返りを記入し、その後の指導に生かしている。 △:まとめや振り返りの時間を十分にとる。 △:教師が一方的にまとめてしまうのではなく、児童が自分の言葉で考えながらまとめさせる。 △:タブレットの使用に慣れてきている。今後は一層の活用を図る。 △:各教科等においてどのようにICTを活用していくことが効果的なのか、指導する教員がもっと理解を深める。 △:授業においてWi-Fiがうまくつながらないことがあったため、環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最後には児童の言葉で振り返らせるよう、振り返りの時間を確実に設定できる授業構成を意識する。 児童に達成感を味わわせられるような授業形態の工夫を図る。 情報教育推進担当教員を中心に、学校全体で組織的にICT教育の推進を行う。 Wi-Fiがうまくつながらないことも想定した授業を考えるなど、別的手段も準備する。
				4		1			
豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の一層の充実といじめの未然防止の徹底 道徳教育の推進 話し合い活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 偏見や差別のない学校づくり 場に応じたあいさつや適切な言葉遣いの徹底 考え方の違いを認め、自らの考えを深める指導の工夫 互いの考えを交流し合う話し合い活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の人権感覚の向上を図るとともに、児童の人権意識を高め、いじめ0をめざす。 各学級で年間10～15時間以上学級会を実施し、コミュニケーション能力を育成する。 	4		4		<ul style="list-style-type: none"> 教師自らも人権感覚を意識しながら行動することを心がけている。 △:教員一人で行うのではなく、組織的・計画的に行う必要がある。 △:特に下学年において、コミュニケーション能力の育成を図るような学級会を実施する。 △:少しずつ自分の意見を述べようとする意欲が高まってきている。 △:個人差が大きいので、自信をもてない児童への手立てを工夫する。 △:障害者理解教育の充実がまだ十分ではない。巡回指導教員と連携を図る活動を一層すすめる。 △:こすもす教室について巡回指導教員による授業を低学年で実施した。 △:保護者の理解を深めるために継続的な取組を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までの研究を生かし、学年や学校全体でいじめの未然防止や早期対応に取り組むとともに、人権教育に重点を置いた取組を行う。 児童会を中心に「自分から積極的にあいさつできる」取組を継続して行う。 学級会についてOJTを実施し、指導法や準備すること、必要なものについて教師がまず学級会指導の系統性について理解を深める取組を行う。 学級会を行う前に司会グループに事前指導をしたり、何のために学級会を行うのか子供たちに理解させる。 特別な支援を要する児童については巡回指導教員との連携を積極的に図りながら指導にあたる。 こすもす教室通信を学級でも紹介することで、連携や理解をさらに深めていく。 副籍交流については、担当学級との交流で実施した内容について学校だよりや学年だよりで広く周知して理解を深める。
				4		1			
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の理解推進と充実 地域、保護者との連携、及び地域の特性を生かした教育活動 「見える学校」「話のできる学校」による開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回型特別支援教室の活用及び、支援の充実 地域人材の発掘、及び地域の教育資源の積極的な活用 学校だより、学年だより、学級通信、専科通信、ブログを通じた積極的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回指導教員と連携した障害理解教育の正しい理解と、より一層の充実を図る。 発達段階に応じた特別支援教室との連携を図った授業を行うとともに学校だより等で学期に1回以上特別支援教室の活動を周知する。 地域の自然や文化・伝統に触れる環境づくりをする。 各学年・専科からタイムリーかつ週に1回以上ブログを発信する。学級・専科便りは毎月1回発行する。 	3		1		<ul style="list-style-type: none"> △:障害者理解教育の充実がまだ十分ではない。巡回指導教員と連携を図る活動を一層すすめる。 △:こすもす教室について巡回指導教員による授業を低学年で実施した。 △:保護者の理解を深めるために継続的な取組を検討する。 △:コロナ禍でなかなか地域に触れる機会がないが、1年生は近隣の公園に出掛けるなどの学習を設定している。 △:日常的に授業や活動の様子を意識してブログにアップすることを心がけている。今後も週に一度のアップを継続する。 △:学年や学級によってブログのアップ数に差が出ないよう声を掛けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する児童については巡回指導教員との連携を積極的に図りながら指導にあたる。 こすもす教室通信を学級でも紹介することで、連携や理解をさらに深めていく。 副籍交流については、担当学級との交流で実施した内容について学校だよりや学年だよりで広く周知して理解を深める。 ICTの活用により、教室でも地域の自然や伝統文化について学べる教材を作成する。 学年で担当を決めるなどして効率の良い週1回のブログアップを目指す。
				4		2			